

校長つうしん No. 4

Sapporo
Odori

2016.6.30

鈴木恵一

風をうけて

定通体連 & 高文連

全道大会 (全国大会予選) 結果

◆バレーボール

男子：準優勝 (全国大会出場) 女子：3 位 (全国大会出場)

◆バスケットボール

男子：3 位 女子：優勝 (全国大会出場)

◆卓球

男子団体：優勝 (全国大会出場) 女子団体：優勝 (全国大会出場)

男子個人：趙 炯賛 (チョウ・ヒョンチャン 3 年次) A ブロック 優勝 (全国大会出場)

女子個人：津島 葉月 (3 年次) B ブロック 優勝 (全国大会出場)

齋藤 朱里 (4 年次) (全国大会推薦出場)

◆バドミントン

男子団体：準優勝 女子団体：優勝

女子個人：岩野 麻美 (3 年次) 優勝

◆将棋

女子個人：國岡 真由希 (3 年次) 優勝 佐藤 希 (4 年次) 準優勝



キャリア探究と人生の探究

定時制通信制体育連盟全道大会において、いくつかの競技の開会式でご挨拶しました。選手諸君へ向け、スポーツを通じて心がけてほしいことを話したのですが、これを一般的な生活に置き換えて掲載しておきます。

「勝ちに不思議な勝ちあり、負けに不思議な負けなし」とは、剣術の達人であった江戸時代後期の平戸藩主・松浦静山まつらせいざんのことばです。プロ野球解説者の野村克也氏が監督時代によく引用して有名になりました。「勝つときは実力とは別に不思議な力によって勝利に導かれることがある。一方、負けるときには必ず負ける理由がある」というものです。勝っても負けても、振り返ることは大切です。

勝負に勝ったとしても驕る（傲る）ことなく稽古に励めという戒めの言葉として受けとめたいものです。

これは人生にも通ずる考えです。人生を「勝ち負け」で論じるとおかしなことになりますが、こうした物事の考え方を実際の生活にどう結び付けるかが重要です。物事がうまくいったときは、己の実力を過信せず、見えない力（誰かの支え）のお陰と謙虚に受けとめ感謝すること。失敗したときは他人のせいにせず、己の至らなさを反省せよ、という意味も込められているのだと思います。目標を達成するためには、当人の能力のほかにタイミング（時期、時代）や場所、環境（社会・経済・産業構造の状態）も大きく影響し、他者との関係性や協力も重要な要因となります。

本校では今年度より「キャリア探究」が本格的に始まりました。今後、自分のキャリアを考えていくうえで興味・関心のある分野のことを学ぶことは大切ですが、興味・関心が深ければ成功や幸福につながるというわけでもありません。世の中が混沌としていて、何が成功につながるかわからない時代となっただけ、本当に身につけるべきことは何か、よく考える必要があります。

たとえば「高学歴・高資格・高地位 = 人生の成功」というわけでないことは誰もが感じています。さらに踏み込んで考えてみると、学歴や資格、地位そのものが人生を決定づけているわけではなく、目標へ到達するための努力や自我の確立にこそ大きな意味があることに気づきます。人生の通過点にどれだけ意味ある目標、価値ある目標を設定できるか。前回も書きましたが、価値は価値を見出そうとする人の中に宿るものです。そのために何を磨かなければいけないか……

人生は、努力以外の要素も含めてトータルで考えなければいけません。多くの人は「自分の努力が足りない」とか「自分はなんて意志が弱いんだろう」とネガティブ思考のスパイラルへ巻き込まれていきます。真面目な人はその渦に飲み込まれ心が病んでしまいます。そもそも、成功者のサクセスストーリーや理論は立派すぎて、劣等感を強化する方向に働くことが多いと言われていました。自分に合わない方法を押つけられて無理に頑張ったり悩むのではなく、人生の価値をどこに置くか主体的に深く考えることが大切です。現在、失敗者に学んでメンタルをどう立て直すかという「心のありよう」に関心が集まっています。「しくじり先生」という番組がありますよね……結局、失敗から這い上がって良かったねというサクセスストーリーかい！と思うかもしれませんが、究極は、何が幸せかと考えるとき、それは他人の幸せを基準にするのではなく、あなたの幸せはあなたが決めるということです。成就感や達成感、必ず頂点に立たなければ得られないというものではありません。個々のレベルで小さな目標を設定して、小さな成功、小さな幸せを積み重ね、そのたびに「やったね！」とつぶやきましょう。

今回は今回のことに関連して「固有の生」について考えてみたいと思います。